



■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると6月の自動車生産台数は前年比+41.4%の69万4,241台。

輸出は+76.3%の33万9,014台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると7月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+3.3%の24万7,148台。

内訳は乗用車が+25%、貨物が+9%、バスは-34.3%。

【住宅着工戸数】

6月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比7.3%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比1.0%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は、76,312戸。前年同月比7.3%増、4か月連続の増加。

○新設住宅着工床面積は、6,295千㎡。前年同月比7.4%増、3か月連続の増加。

○季節調整済年率換算値では、866千戸。前月比1.0%減、2か月連続の減少。

【伸銅品生産】

6月伸銅品生産量は前年同月比48.4%増加の6万8,600 t。半導体不足とそれに伴う自動車生産減の直接の影響はまだ見えてこない。

銅糸は、前年同月比9ヶ月連続のプラス。銅糸単体の生産量は、6月も2018年の同月実績を超えた。半導体関連の需要が引き続き良い。アジア諸国において、新型コロナ変異株を伴う感染者拡大によるロックダウンも、まだ銅糸生産への影響が見えない。半導体不足に伴う自動車生産減少に対しては、今後、自動車メーカーの挽回生産が進むものと考えて、部品の在庫積み上げを進めているため、こちらも銅糸生産への影響が見えて来ない。

黄銅棒は、同比5ヶ月連続プラス。ただ、2018年同月実績を上回った。住宅設備関連が緩やかに回復。家庭用ガス機器が国内需要期を過ぎているが、海外輸出向けが好調に推移。水栓金具向けは、新規住宅着工が少ないが、リフォーム関連が好調で、こちらが牽引している。

【電線】

前年比+3.7%の5万2,800 t。内訳は、国内が+3.8%、輸出が+0.8%。

【輸出】

電気銅輸出が-37.1%の4万2,646 t。銅スクラップ

が+40.1%の3万8,379 t。

【輸入】

電気銅が-54.7%の495 t。スクラップが+7.8%の8,895 t。

【見通し】

【自動車】

4月の自動車生産が+64.1%。6月国内販売台数が前年比+3.3%。生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。ただし、販売の増加率が減ってきている。今後生産、特に販売が増加していくか注視。

【伸銅品生産】

6月伸銅品生産量は前年同月比48.4%増加の6万8,600 t。半導体不足とそれに伴う自動車生産減の直接の影響はまだ見えてこない。更に増加するか注目。

【電線】

前年比+3.7%の5万2,800 t。内訳は国内が+3.8%、輸出が+0.8%。内外とも増加率が減少。内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は、電気銅が内需要因から減少。スクラップは外需旺盛に伴い増加。

・銅輸入は、電気銅が内需玉から急減。スクラップは内需回復から微増。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】在庫は、銅建値が109万から一時、一段下の105万まで急落した(その後111万まで回復)ことから発生が無く在庫薄。

需要面に関して前月に続き、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく生産は急増傾向にある。

銅建値は急落したがその価格での販売に躊躇する問屋も多く定期で入らないメーカーが高値買いの傾向も見受ける。

【LME・為替予想】

今月は①コロナ感染拡大動向(デルタ株による)②米中の景気動向に左右される。

①に関しては、ワクチン接種によって感染拡大が治まった欧米が新株(デルタ株)に再び感染拡大の危機に陥っている。ただ、感染はするが実際のところ死亡者数は極端に減った。例えば人口の72%がワクチン接種を終えてる英国では死亡率がほぼゼロになってきており感染拡大が防げるのではないかと?

②に関しては、直近の景気指標で中国が7月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.4と、前月の50.9から低下し、中国政府が新型コロナウイルス対策でロックダウン(都市封鎖)を開始した2020年2月(35.7)以降で最低となったこと、米国も7月の米製造業景況感指数は59.5と前月から低下し、ダウ・ジョーンズまとめの市場予想(60.8程度)も下回ったことなどから追加的景気対策が無ければ失速するのではないかと?

これらを踏まえた8月の銅価格は9,000-10,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は109円~111円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては102万~115万円程度と予測している。

(「7月の銅の概況及び8月の見通し」おわり)